（第３種郵便物認可）　1996年（平成8年）7月10日（水曜日）　社会　（2.0）

4歳女児が行方不明

7日、太田のパチンコ店から

太田署 公開捜査 ポスター6万枚作製

大泉町寄木戸（電気工事業手伝い、横山保雄さん宅）の長女、ゆかりちゃん（当2）＝大泉町立西保育園児＝が七日午後、両親とともに行った太田市新田木崎町のパチンコ店からいなくなり、両親から太田署に捜索願が出された。同署は同日、幼女失踪事案対策室（室長・宮崎孝雄長、百五十人）を設置し、県警捜査一課の応援を得て事件、事故の両面から捜査を開始、九日午後四時、公開捜査に踏み切り、ゆかりちゃんの発見に全力を挙げている。同署は失踪時、パチンコ店内でゆかりちゃんが男性と話をしていたとの情報も入手、この男性の特定を急いでいる。

横山ゆかりちゃん

複数の川が利根川に流れ込む刀水橋周辺を捜索する機動隊員

調べによると、ゆかりちゃんは七日午前十時半ごろ、父親の保雄さん、母親の光子さん（三〇）、妹の一江ちゃん七カ月）とともに、車で太田市高林東町のパチンコ店「パーラー・パチトピア」へ行き、店内で遊んでいたが、午後一時四十分ごろ、光子さんが姿を見た直後に、行方がわからなくなった。光子さんは約十分後、ゆかりちゃんが店内にいないことに気づき、保雄さんと店内を探したが見つからず、同日午後二時過ぎ、太田署に届け出た。

ゆかりちゃんは身長一メートル、体重一七キロ、髪は肩まで伸ばし、眼上を切っている。顔型は丸く、ほっぺたにリボンを結んでいる。顔型は丸く、ほっぺたにリボンを結んでいる。

知り合いの保雄さんは、「どんなことでもします。どうか連絡を。」と、どんなことでもします。どうか連絡を。」と、無事に返してください。」と、何か知っている人が手掛かりがつかめないでいる。

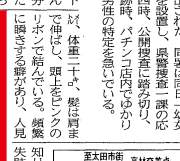
「なんとしても無事に」父帰り待つ親

「お姉さんタイプ しっかりした子」保育園関係者

ゆかりちゃんが通う大泉町立西保育園の吉田教諭長の話では、ゆかりちゃんは一歳の時から同保育園に通園しており、現在年中組。「年下の子らと遊ぶことも嫌がらない お姉さんタイプのしっかりとした子」だという。

担任の保母も「初めてのことはなく、七日も姿がなくなる直前まで、保護者の近くで遊んでいた。」という。

保雄さんは光子さんに「ゆかりがいない」と知らせた際も「必ず近くにいる」と信じ、光子さんに動いてはいけないよう指示してからパチンコ店や駐車場の車の影などを探し回った。パチンコ店職員だけに経過を概要を話していて、努めて平静を装ったというが、利根川周辺などで見つかる事件があり、未解決になっている。



ワンピース、白色レースの半袖カーディガン、靴はピンク色でセーラームーンの絵入り。

同署は、公開捜査に先だってゆかりちゃんの写真入りポスター約六万枚を作製、九日午前八時半からは、同店西約五十㍍の八瀬川周囲に機動隊員約八十人と車両十数台を投入、検索した。例年六月には集団生活を始めるムクドリ家族の大きな悩み。今年は、あの手この手の対策は今現在、みられない。手塚会長は「彼らとのイタチごっこ。花火作戦の成果に手ごたえを感じ始めている。

ムクドリは集団で行動するのが特徴。集団の安全を確保するため、群れのリーダーが巣で偵察にやってくすれば決して寄りつかない。花火作戦は昨年を実施。集団が訪れて寄りつかなかった。数年前から、リーダーの後に集団が来るのに気付いた商交会は今年、花火で追い払う作戦を考えた。集団で巣へ戻ってくるリーダーを追い払う作戦を立て、来訪を手ぐすねひいて待っている。

すみ着くまでの「約一カ月間、日没後約一時間、街路樹の根元など八カ所で花火を打ち上げている。会員が持ち回りで参加、一日も休んでいない。十四年の苦労が実ったかのように、集団は撤退。ムクドリの巣の数は昨年の三分の一程度に減少した。

ムクドリは、体長二十㌢、髪は肩まで伸ばし、眼上を切っている。顔型は丸く、ほっぺたにリボンを結んでいる。

ムクドリ対策に花火を上げる商交会員

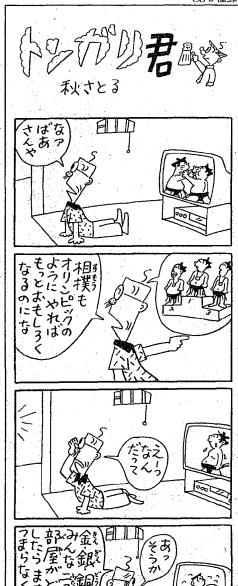
ムクドリ花火で撃退

リーダーを音で驚かす

「今年こそ、（ムクドリが）集団ですみ着く前に追い払う」。JR前橋駅北口のケヤキ通りを花ぐらに四万灯とも言われ、鳴き声が集団ですみ着く前に追い払う作戦を考えた商交会（手塚郁夫会長）は毎夕、花火を打ち上げている。ケヤキ並木にやってくるムクドリは三一〇羽程度。ケヤキ並木に集団の前にやってくる。会は集団の前にやってくるムクドリは三一〇羽程度。ケヤキ並木に集団の前にやってくる。

前橋駅前、悩み解消に有効策

トンガリ君　秋さとる



栄女小食中毒

新たに5人から「O157」

夏休みまで給食自粛延長

境町下渋名の栄女小（飯島正美校長、児童数六百三十七人）で発生した病原性大腸菌O（オー）157による食中毒事件を調べている県衛生環境部は九日、下痢や腹痛を訴える児童が前日より六人増えて百四十一人となり、新たに同大腸菌が入院患者四人、通院患者八人の計五人の児童から検出され、合計十四人になったと発表した。

県庁生環境課の「食中毒対策検討委員会」小委員会の聞き取りは九五彩が終了、九日午後三時現在、症状を訴えているのは児童百十七人（男六十六人、女五十一人）と女性教諭三人。医療機関を受診したのは、前日より八人増えて十一人、入院患者は九人（男二人、女七人）で、五日から入院していた小五男児が退院